

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500160		
法人名	ナチュラルケア 中津川		
事業所名	グループホーム恵寿式番館		
所在地	岐阜県中津川市苗木4618-96		
自己評価作成日	令和5年3月2日	評価結果市町村受理日	令和5年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500160-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム恵寿式番館では、たとえ認知症になったとしても最期まで「人が人として生きていく」上で、その方の人生・大切にしている事、大事な人、などを受け止めると同時にわれわれ自身がどのようにして入居者様に受け入れられるかを常に考え、喜び、悲しみ、楽しみ、苦しみを共感し合い、その上で「恵寿」という「もう一つの家」で一緒に暮らす事を目指します。また、スタッフに関しても法人独自の研修を取り組み、「尊厳あるその人らしい穏やかな生活」を目標とし、より良いケアを目指し取り組んでいます。地域との交流に加えて、認知症と言う病気を理解していただける働きかけを積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、見晴らしの良い小高い場所にあり、各部屋から外の景観を眺めながら過ごすことができる。未だ、コロナ禍にある為、地域行事の中止も続いているが、利用者が孤独にならないよう、地元在住の職員が、地域の情報を話題に利用者に声かけし、記憶と共に笑顔を引き出すよう心がけている。また、利用者自らが書いたメッセージを便りと共に送付し、家族との絆につなげている。職員として看護師が配置され、准看護師資格を持つ職員もおり、安心して支援することが出来る環境である。管理者と職員がフラットな関係で意見交換し、モチベーションを高め合いながら、質の高い介護を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という理念をあげ、常にナチュラルライフの関わりでの7原則を念頭におき、穏やかな生活が出来る様に日々のケアに努めている	理念を玄関や事務所に掲示している。職員は毎日、出勤時に理念を確認し、業務に就いている。常に理念を意識した利用者支援に努め、新たな気づきがあった場合は、職員間で意見交換とケアの振り返りを行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じ地域に立地している、同法人の小規模多機能恵寿の職員が地域の常会に参加していて、住民から職員に対する苦情や意見があれば聞き取りをし、小規模多機能と式番館で情報共有し早急に対応している。	コロナ禍で地域行事は中止が多いが、年2回の草刈りや近隣の清掃活動などに参加している。地域在住の職員が多く、地域情報や住民の声を耳にした際には、福祉相談などにも対応し、地域の一員としてのつきあいを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナ感染拡大により地域行事はすべて中止となる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ感染拡大により、集まって行う地域運営推進会議は中止しているが、書面にて行っている。	運営推進会議の対面開催は中止し、書面開催にて実施している。出された意見の回答、近況報告、入居者情報やヒヤリハット報告などを資料としてまとめ、構成員に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム部会は全て中止となり、ケアマネ部会はオンラインでの参加。国からのコロナの情報はこまめに市役所からメールが届き、情報を得ている。	運営推進会議が書面会議となり、市担当者と直接会う機会は減ったが、メール等で頻繁に報告と相談を行っている。新型コロナの最新情報や困難事例についての対処法等、助言を受けながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておらず、年に2回の身体拘束の研修を行い、本当にその方に必要なのかを職員の理解を深めるとともに、身体拘束を行わないようにその人に合ったケアに取り組んでいる	「身体拘束適正化・虐待防止委員会」を定期的に開催し、事例検討など具体的内容で話し合っている。また、全職員に委員会議事録の回覧で内容を伝えている。安全の為に行為が身体拘束や虐待にあたらないか、何気ない声かけがスピーチロックではないか等、研修で学びながら、チェックシートで自らのケアを振り返っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回 虐待についてアンケート形式で研修を行い、虐待が見過ごされる事が無い様、行われる事の無い様防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在は後見人制度を利用されている方がいないが、社内にて情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ感染の対策をしながら、施設見学には出来る限り対応している。契約内容の説明もアクリル板を使用し対面式で行い、疑問があれば連絡をいただけるようお話ししている。又退居についてはその際に説明をさせて頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からは電話でご意見ご要望を伺っている。コロナ禍の中、オンライン面会を導入しました。ただ利用頻度は決まった方のみとなり、家族は窓越しでもいいから会いたいと言われる方も多く、オンライン面会の使用頻度はいまだ乏しい。	コロナ禍での面会は、オンラインや窓越しにて実施している。今後も、家族の意見や希望を受け止めながら対応するとしている。ホーム便りと共に、利用者自身が書いた家族へのメッセージを送る取り組みは、家族に好評で驚きや喜びの声が届いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ感染予防のため職員同士のミーティングは中止。個々にお知らせがある場合はケアノートや申し送り日誌に記入し、情報共有している。	管理者と職員は、業務上の事だけでなく、プライベートな事も話しやすい関係ができています。管理者が職員の気づきや提案についても、信頼して任せることで、モチベーションアップに繋がり、職員それぞれが更なる資質向上に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別での年1回の面談は短時間で行った。事業所ごとに毎月「体制図」を作成し、自分の上司、部下を明確化しています。連絡相談系統がきちんとわかるため、相談しやすく、安心して働ける職場を目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	気付いた事等はそれぞれの専門職が意見をだし合い話を聞き対策を考えている。イベントなどは、スタッフそれぞれの提案に理解を得て実施することもあり、自分がやりたいことが実現しやすい職場になっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ部会、グループホーム部会はコロナ感染予防のため当社は欠席、あるいは会議自体が中止されているが、グループホーム部員同士の情報共有はメール等のやり取りで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談時は必ず本人の面談を行ない、本人の気持ちや要望を聞き、ご本人が安心して生活しやすい雰囲気を作り不安等を受け止めるよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からご家族が困っている事、要望等を伺い、電話でもお答えするようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご家族よりご本人の様子又はご家族のご要望を伺い、問題点を見極めケアマネ、看護師、介護職員と情報交換を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間で時間を過ごす中で、入居者と一緒に生活したり作業に取り組むことで支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話で最近の様子、ご本人の言葉などはオンライン面会で家族とお話しをしてご協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓越し面会やオンライン面会を行っている。手紙のやり取りを行っている方がいる。	感染予防対策をした上で、面会方法を工夫しながら、関係継続を支援している。また、職員は日頃から地域の事を話題に声かけし、利用者が懐かしんだり、記憶を呼び起すきっかけとなり会話が盛り上がることもある。天気の良い日は、ドライブで馴染みの場所を楽しめるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	脳トレや軽運動をしながら利用者様同士が楽しめる場面を作れるよう努めている。ゲーム、かるた等無理のない範囲で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の支援場所の最新情報を出来る範囲で調べお伝えし、その後も状況に合わせてご家族と連絡を取るよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴を把握し、ご本人のお話から希望や意向も汲み取れる努力をしたり、ご家族から伺う又はご本人の立場に立って考えるように努力している	日常生活の様々な場面で、思いや意向を把握できるように、利用者が発する言葉や表情を見落とさないよう心がけている。把握した内容は職員間で共有している。常に本人本位の支援を基本とし、利用者にとって「もうひとつの家」になれるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご家族からご本人の生活歴等の情報を頂いたり、入居後もご本人とお話をし情報を集めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を利用者ごとに把握し生活の様子等をケア記録、連絡ノートに申し送り、把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の身体状況、言動等を把握し話し合い、現状にあった介護計画を作成している	ケアマネジャーは、出勤時に全ての記録に目を通し、利用者の状態を確認している。医師の意見と職員からの情報、事前に聞いている家族の希望を反映させた介護計画を家族に送付し、後日、ケアマネジャーか管理者が内容を説明している。定期的にモニタリングも行っている。	昨年、介護計画作成会議に1名の家族が参加している。コロナ禍で制限も多いが、今後も状況をみながら、出来る限り、家族参加での介護計画作成会議開催に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、連絡ノートに記入し情報を共有、見直しに活かしている。個人記録の取り方は事業所独自で開発し幅広い年齢でも使えるよう、そして職員の負担軽減も図るためバーコード形式を導入し特許も取得しました		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人の思いを汲み取り対応できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の高校に通う生徒の介護実践研修はコロナ感染拡大により中止となりました。2月に地元の高校生対象のオンラインでの就職説明会があり、少しでも介護の仕事に興味がある学生の研修の受け入れを考えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に一回/月に往診に来て頂いている。急変時は職員が受診対応をし、ご家族に報告をしている。ご家族にて受診に行かれる場合は、最近の様子をまとめた書面を持参していただき、事業所とかかりつけ医との連携を図っている。	契約時に、かかりつけ医についての方針を説明し、家族が選択をしている。月1回協力医の往診があり、歯科医の往診もある。職員として看護師の配置もあり、日常の健康管理を行いながら、協力医との連携を密にしている。他の医療機関との連携も充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事やいつもと違う様子は、即時管理者と看護師に連絡し、記録に残している。そのため早めに受診に行くことができ、早期対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必要に応じて介護又は看護サマリーを提供している。退院の目処が立てば当社で受け入れが可能かどうか状態確認に伺っている。退院後も円滑にケアを継続できるように担当看護師より情報収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はご家族へ特養の申し込みの提案もさせていただきますが、基本的にはご家族の意思を尊重している。ターミナルケアはご家族が希望され、当施設の体制が整った場合のみ受け入れしている。いずれもご家族と面談を重ね、話し合いの結果は職員全体で情報共有している。	入居時に、重度化や終末期の事業所指針について、家族、利用者に説明し同意を得ている。状態の変化時は早い段階で、医師を含め関係者が十分に話し合い、事業所で出来ることの説明や、他医療機関等への移行等についても、情報提供を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡先を明確にし、知識のあるスタッフからの指示で行動している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を職員、入居者様対象に2回/年行っている。今年度はコロナ感染予防対策を徹底しながら、業者からポータブル発電機の実地指導を受け、緊急時に使用できるよう、防火管理者から職員全員に研修を行う。	年2回、夜間想定を含めて火災訓練を行い、通報、誘導、器具の取り扱いなどに取り組んでいる。感染症に対する応急処置方法についても、全職員で学んでいる。備蓄の点検も定期的に行い、地震、水害についても対策を話し合っている。	避難訓練を実施する時には、近隣の協力を得られるよう、事前に訪問、または文書での案内等を行う事が望ましい。また、地域の防災訓練にも事業所として参加し、協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご自分の趣味を楽しんだり、窓から外の景色を眺めたり、思い思いに過ごされている。	職員の年間研修にプライバシー保護、傾聴などを組み込んでいる。常に利用者のプライバシー保護に努めており、トイレや浴室の排泄用品の収納場所には扉もある。排泄支援や入浴支援時には、羞恥心にも配慮しながら声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から希望の思いを聞き取ったりどうするかをなるべく自分で決めて頂くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールはあるが利用者様に関しては出来る限りご希望に答えるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご家族がご用意して下さっている。不足分はこちらで購入することもある。定期的に訪問美容室を利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に作業をできる方はいらっしゃるがリビングにてカウンター越しに職員と献立の事について話し、好きな物や季節の物をお出ししている。他の利用者さんのお膳を下げて下さったりお盆拭きをして下さる方がいらっしゃる	コロナ禍以前は、利用者と共に食材の買い出しを行っていたが、現在は業者から届く食材や家族の差し入れも活用しながら、職員が調理している。利用者は調理作業の参加を控えているが、カウンター越しに調理方法を職員に伝えたり、出来ることを手伝っている。おやつ作りは、利用者も一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、食事量を把握し、食事形態においてもその人の健康状態に合った形態で提供している。好き嫌いがある方については出来るだけ応じている。定期的に朝はヤクルト等を提供し腸を活性化させ便秘予防にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後とはいかないが歯磨きの声掛け、介助、義歯洗浄を行い、ご家族の希望がある方のみ1回/月のペースで歯科医師の往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を毎日記録し、パターンを把握しながら時間毎にトイレ誘導している。尿意便意の訴えが乏しいが、おむつ等が本当に必要なのかを数人の職員で話し合い、ご本人に不快な思いをさせないように、職員は失禁時には素早く処理する事を心がけている。	現状の排泄状態を維持できるよう、トイレでの排泄を基本に声かけとトイレ誘導で支援している。本人の状態に合った適切な排泄用品を使用しているか、職員間で話し合っている。変更時は家族にも連絡し、費用の負担軽減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を積極的に食事に取り入れている。食後にはコーヒーをお出しすることもある。おやつ時には便秘気味の利用者様にスルッと茶を飲んで頂いている。腹部マッサージ等を行っているが、個別性には欠ける。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	固定して入浴しているわけではないが、なるべく個々の希望通りの入浴は心がけている。湯船には入浴剤を使用し気分よく入浴して頂けるよう工夫をしている。援助は自立、部分介助、全介助と個人に合わせた個別のケアの提供ができています。	入浴は週2回としているが、利用者の希望で柔軟に対応をし、入浴が楽しみとなるよう、入浴剤を利用するなどの工夫をしている。また、入浴支援は、普段はあまり話せない事などを聞いたり、ゆっくりと傾聴するなど、利用者の思いを把握する時間と捉え、利用者の状態に合わせて、安心・安全な支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は眠れない方がいる日や良く寝ている日等さまざまである。昼間は休息できる様臥床して頂く時もある。利用者様の睡眠障害にならないよう、吸収性の良いパットを使用し気持ち良く就寝して頂いている。就寝時間も各々違い個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬入れに常に最新の薬剤情報を入れてあり、すぐに確認出来るが、個々の理解度はバラつきがある。服薬方法は個人別にて対応しており、一覧表にて表示してある。誤薬防止のためダブルチェック体制にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵が好きな方には塗り絵を、歌が好きな方には歌詞カードをお渡しし、スタッフと歌ったりしている。掃除や洗濯たみなど軽作業もお手伝いして頂いている。しかし全体的に頻度が少なく、今後もう少し日常に取り入れていきたいところ。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春にはお花見、秋には紅葉見学に行っている。コロナ感染予防のため人ごみは避け、ドライブで外出はしている。	事業所周辺を散歩しながら、近隣の人と挨拶を交わしている。天気の良い日には東屋で外気浴をしたり、ドライブで利用者の気分転換を図っている。今後は、家族の協力を得ながら、感染予防対策をした上で、できる限りの外出支援を計画している。近々に花見を予定している。	

岐阜県 グループホーム恵寿式番館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお金が発生した場合は一旦事業所で立て替えて、その後ご家族へ請求する。外出してお金使うという機会はコロナ感染予防のため設けていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら居室で電話をする利用者様や施設外のお知り合いの方とお手紙のやり取りをしている方がいらっしゃるため、切手やはがきの購入は職員が行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには例えば2~3月は雛人形など季節に合ったものを飾り、自宅の庭に咲いている花を持ってみえる職員もおり、リビングの入り口に生けることもある。お花が好きな利用者様や仏さまを持参されている利用者様にもお花を提供し大変喜ばれている	共用の空間は広く、木のぬくもりが感じられる。利用者が慣れ親しんだ昔ながらの障子戸もあり、落ち着いた雰囲気がある。季節感を大切に様々な行事を行ったり、ひな人形を飾っている。空気清浄機を複数設置し、自然換気も行いながら、清潔な空間作りと感染予防に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間であるが、一人ひとりが安心できる場所やくつろげる場所、プライベートを守れる居場所を作れる様工夫している。リビングでは気が合う利用者様とお話が楽しめる様に席の配置にも気を配っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、以前から使っていた家具、生活用品を使用いただきその人に馴染みのある生活空間作りに努めている。朝、掃除をするときは居室の換気をして布団を綺麗にし、衣類等の整理整頓も心がけている。	木製の表札を掲げ、「我が家」と感じられるよう工夫している。重厚で高級感のある表札は、退去時に記念に持ち帰る人もある。広いクローゼットがあり、室内は整理整頓がしやすい。使い慣れた小物や写真を飾り、自分らしく過ごせる空間作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状況に合わせた環境作りを行い、必要に応じて各居室にはセンサーを配置し、安全に生活できるよう職員が支援している。		